

資料室だより 104

Biber, Heinrich Ignaz Franz : Requiem in f (MC1/B581/1)

ビーバー (1644-1704) のレクイエムの楽譜を購入しましたので、ご紹介します。すでに叢書楽譜の *Denkmäler der Tonkunst in Oesterreich*, 59 巻 (Jg30/1) にフルスコアが所収されており、当資料室もこれを所蔵しています。ニコラウス・アーノンクールがこれに基づいて 1968 年に録音し、彼の宗教声楽曲の再発見の機運をつくりました。このたびは実用楽譜としてオルガン・リダクションした合唱譜を Carus 版で入れました。ビーバーはヴァイオリンの名手としてヴァイオリン曲が名高いですが「ロザリオ・ソナタ」のような名曲からもわかるように、深い宗教性を持った作品を残しています。この f moll のレクイエムは 17 世紀に作曲されたレクイエムの中でも最も印象的な、そして深い表現を持つ作品であると、この楽譜の校訂者 Armin Kircher は述べています。

ビーバーの宗教声楽曲は独唱曲が 2 曲すでに資料室に入っています。Nisi Dominus aedificaverit domum (Ps, 127) と O dulcis Jesu です。いずれも彼の本領を発揮するヴァイオリンパートが大きな役割を果たしており、独唱とヴァイオリン独奏と通奏低音という 2 つのソロパートが拮抗しあう華やかな作品になっています。その他の宗教合唱曲は上述の *Denkmäler* のなかに所収されています。

Dupré, Marcel (1886-1971): Quatre motets, Op 9 (MC1/D942/1)

デュプレの作品は皆さんオルガン曲で親しんでおられると思います。圧倒的に多いのは無論オルガン曲ですが、わずかに宗教声楽曲も残しています。先日、本科生の卒業演奏で、デュプレの Ave Maria を歌われた方がおられたのを機に 1 冊購入しました。資料室では彼の声楽曲を買うのは初めてです。以下の内容になります。

1. O saltaris 混声合唱とオルガン
2. Ave Maria 独唱とオルガン
3. Tantum ergo 混声合唱と 2 台のオルガン (小オルガンと大オルガン)
4. Laudate 混声合唱と 2 台のオルガン (小オルガンと大オルガン)

いずれの曲も元のテキストはグレゴリオ聖歌の勉強でよくご存知のものです。どうぞご利用ください。

杉本ゆり記